明海大学 不動産学部

不動産の不思議

学生たちの視点と発見

第208回

真四角を用いた家

個性的設計 由来が知りたい

桜庭 修子
不動産学部4年

【学生の目】

不動産学部では、不動産の知識はもちろん、建築計画等の講義を通して、建築物の部位や単位空間についても学ぶ。それらが統合されて1つの建築物なるため、各部位の計画上の要点を知ることが重要なことを学び、建物を見るときは部位の形、大きさや材料に注意する癖がついた。

この観点から不思議な建物に出会った。真四角を多用した建物だ（写真）。窓には通風や彩光をとって快適に過ごす機能的な役割のほか、外の景色の開放感や季節感を味わう心理的な役割もある。また住宅の居室では、①採光のための窓その他の開口部の面積は床面積の7分の1以上、②換気のための窓その他の開口部の面積は床面積の20分の1以上でなければならない（建築基準法28条1項、2項）と、法的な位置づけもある。

不思議を感じる理由を6点考えた。第一は窓の大きさだ。窓は大きくとって機能的、心理的な機能を高めることが通常だが、窓が小さい。第二は窓の形だ。一般にやや縦長のサッシュ戸を2枚引き違いで用いることが多いが、正方形のサッシュ戸が1枚だ。正方形には強い印象があり、住宅では余り用いない。第三は窓の数で、同じ形状の窓が繰り返し用いられている。第四は窓の位置だ。一般に天井高の中ほどにつけることが多いが、天井のすぐ下につけられている。第五は窓の左右につけられた付け柱の存在だ。第六は腰壁のタイル張りだ。一般的な基礎の高さを超え、1階の床面よりも高い位置まで張られている。

以上に加え、窓と同じ形状のベランダ手すりの開口部があり、全体として、繰り返しの美を感じると共に、要塞のような強い印象を受ける。

角地のこの建物は大きな開口部を自由にとることができる。一方、大きい窓はプライバシーが気になる。また窓は一般に断熱性や遮音性に問題がある。この建物はこれらに特別の配慮をして写真のような設計をしたと考える。

外観の良し悪しは窓が決めると言っても過言ではない。家全体の大きさ、素材、色、デザイン等のバランスとも関係するが、機能性やデザイン性ばかりを優先するとバランスが崩れた家となり、その建物だけでなく地域の価値が下がってしまいかねない。写真のような個性的な建物が地域の価値向上に貢献するよう、由来が伝わるメッセージを建物外部に示すことを提案したい。

なぜ真四角を多用した家になったのか…

【教員のコメント】

デザイン力のある建築士が設計し、完結した意匠をもつ建物には物語性があって、見ていて楽しい。一方でデザインの趣旨が伝わりにくいこともある。なぞに満ちた建物のなぞを解き、物語を伝えるためのサインを提供するアイデアは新鮮だ。